

バレイシヨ

栽培ポイントとスケジュール

- 生育適温は15~20℃。霜に弱く、晩霜にやられやすい。高温にも弱く夏の暑さで生育はとまる。3ヶ月余りで収穫できる短期野菜なので春作にとり入れやすく、暖地では秋植え栽培もできる。
- 種イモから病害が広がるおそれがあるので、種いもは、ウイルス病などの危険のない、種イモとして市販されているものを利用する。
- 新しいイモは、種イモの上方につくので、2回ほど株元に土寄せを行ってイモが地上に露出しないようにする。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
暖地・中間地 (秋植え)		●●				■			●●		■	
高冷地・東北			●●				■					
北海道				●●				■				

●植えつけ ■収穫

ジェイエース登録内容

2021年3月現在

水溶剤

農林水産省登録 第20967号

作物名	適用病害虫	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	ヨトウムシ オオニジュウヤホシテントウ	1000倍	収穫30日前まで	2回以内	100~300ℓ/10a	3回以内 植付時の処理は1回以内、 植付後は2回以内
	アブラムシ類	1000~2000倍 300倍			25ℓ/10a	

粒剤

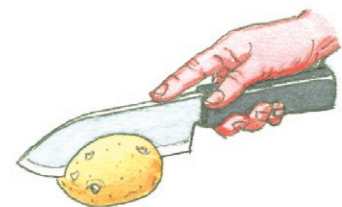
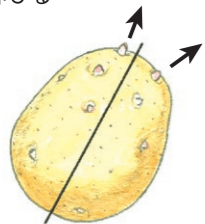
農林水産省登録 第20939号

作物名	適用病害虫	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	アブラムシ類	3~6kg/10a	植付時	1回	作条散布	3回以内 植付時の処理は1回以内、 植付後は2回以内

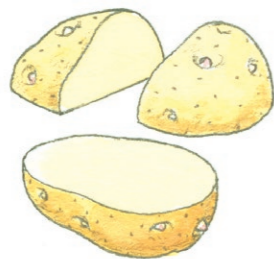
有機リン剤（ジェイエース剤を含む）は長年使用されているため、地域によってはコナガ、アブラムシ類、アザミウマ類などに薬剤抵抗性が発達している可能性があります。そのような地域では、異なる薬剤とローテーション防除を行なってください。

1 種いも準備

先端に近い芽は優勢で大きく、早く伸びる



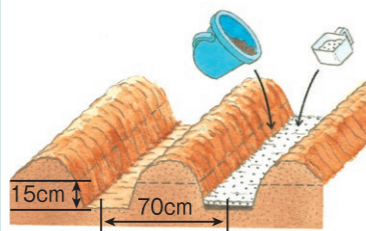
各切片に大きめの芽がつくように切る



70~80gなら2つに、さらに大きければ3つに

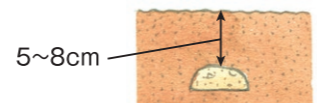
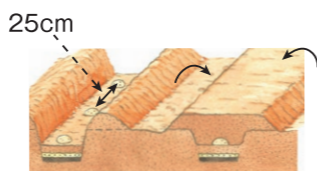
2 元肥入れ

溝の長さ1m当り
推 肥 6~7にぎり
油 粕 大さじ3
化成肥料 大さじ3



3 植えつけ

覆土は軽い土では厚く重い土では薄くする



切り口を下にして種いもを配置する
上に向けると断面に水がたまるなどしてイモが腐りやすい



アブラムシ類の発生を未然に防ぐため
植付け時に処理



粒剤



植付時作条散布

4 病害虫防除



葉に湿った黒褐色の斑点の出る疫病は大敵
早めに殺菌剤を散布する
この病気はトマトにも伝染する



テントウムシダマシ(オオニジュウヤホシテントウ)は葉を著しく食害する。幼虫のうちに防除する



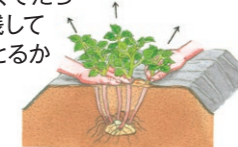
水溶剤



散布

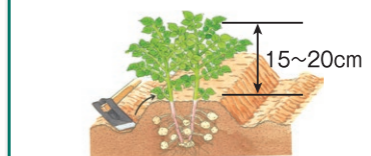
5 芽かき・土寄せ

芽数が多くてたら2本だけ残して他はかきとるかハサミで切りとる



種いもの上方に伸びた茎の先端が肥大してもなる

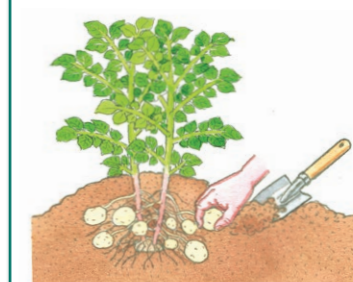
土寄せを15~20cmに伸ばしたところその半月後の2回行なう



1株当たり化成肥料を小さじ1杯ばらまいて、それを埋めるよう土寄せする

6 収穫

いもが肥大してきたら、早いうちから探り掘りして新イモの味を楽しむ



茎葉が黄化し、いもが完全に肥大したところ鍬を入れて掘り起こす